

令和5年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月6日実施)	総合評価 (3月25日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	「活かせる学力」の育成 多様な学びの場の提供	①新教育課程に関する検証を行い、より良いものにする。 ②授業における効率的なICT活用を行う。 ③通級指導を通じ、自己理解と社会性を養う。	①3年間の科目の置き方、評価方法等検証を行う。 ②新しく導入された1人1台端末を授業でどのように活用していくか、職員研修を行うとともに、良い活用の仕方を模索するための授業研究を行う。 ③効果的かつ継続的な計画を立て、通級指導を行う。	①新教育課程をきちんと検証できたか。 ②職員研修及び授業研究を通して、より良いICT活用ができたか。 ③通級指導が効果的かつ継続的に実施できたか。	①新カリキュラムを約3年間、大きな問題なく運営できている。 ②すべての職員が、ICT利活用し授業をおこなっている。 ③通級指導が効果的かつ継続的に実施できた。	①本校により合致している理想の形に近づけていけるよう、引き続き会議等で情報収集し、検討していく。 ②ICTを利活用するだけでなく、よりよい授業をおこなうための研修をおこなっていく。また、継続して利活用できるよう、引き続き環境整備をおこなう。 ③効果的な支援ができるように授業方法や教材研究に取り組む。	①今後もますますICT機器を利用したカリキュラムを実施し、生徒に深い学びの場を提供してほしい。 ②ICT機器の活用を図るための環境整備は高く評価できる。また、授業にICT機器を積極的に活用している点は素晴らしいと感じる。 ③通級による指導においてもICT機器を活用できることを期待している。	①ICT機器を利用した授業改善は行うことができおり成果として高く評価できるが、さらなる発展も目指すことができ、どのように発展させるかに課題が残る。 ②ICT機器の活用を図るための環境整備は進んでいるおり成果として高く評価できるが、教員の負担が増えているという課題もある。 ③通級による指導のおかげで学校に来られるようになった生徒がいることは成果として高く評価できる。	①教員の間で研究会や勉強会を行うことで、ICT機器に対する理解を深めていく。 ②一部の教員の負担を軽減するために、チームで動くような組織を作る。 ③通級による指導の取り組みや実績を職員の間で周知し、通級による指導の理解を深める。
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	豊かな人間性・社会性を備えた人づくり	①部活動や生徒会行事を通して豊かな人間性・社会性を身に付ける。 ②規範意識を育成し、人権・生命や思いやりの気持ちを大切にすることを育む。 ③SC,SSWの勤務拡充に伴い、教育相談等、生徒支援体制の充実を図り、安心・安全な学校づくりを推進する。	①環境の変化に応じた配慮を行い、部活動・生徒会行事がコロナ以前の通常に近い形で円滑に行えるよう企画する。 ②生徒の健全育成を図るため、粘り強い生徒指導を推進する。SNS利用の際、人権・生命や他者との関わりを大切にすることを育む。 ③定期的な相談機会を確保し、生徒一人ひとりに目を配る。年2回のアンケートを行い生徒の課題を発見し、早期対応を行う。	①安全、安心して部活動、生徒会行事を行うことができたか。 ②教育活動において生徒がいのちを大切に思いやりの気持ちを持って行動できたか。適切なSNSの利用が徹底されたか。 ③適切で丁寧な生徒対応ができたか。いじめの未然防止や早期対応ができたか。発達の課題等、個々の課題に柔軟に対応できたか。	①体育祭・文化祭ともに徐々にコロナ禍以前に近い形で実施することができた。生徒も戸惑いながらもそれぞれの役割を果たしてくれた。 ②SNSの適切な利用を促進するために、外部講師を活用するなどして啓発し一定の成果が出ている。 ③新たにサポートドックが導入されアンケートとSC,SSWの援助を効果的に結合した。	①改修工事の関係で、まだしばらくは環境の変化に応じた対応が求められるが、生徒と話し合いながら、実施していきたい。 ②いのちの大切さを、さまざまな活動の中でさらに訴えていきたい。 ③生徒心得や指導の手引きの見直しをはかり、事象に応じた指導体制を再構築していきたい。	①体育祭や文化祭がコロナ禍以前に近い形で実施できたのはよかったと思う。 ②SNSの適切な利用促進について継続的な啓発を希望する。 ③社会に適した指導体制を作してほしい。	①体育祭や文化祭が通常で行えたことは高く評価できる。次年度以降、体育館の耐震工事があるため、プログラムを一部変更しなければならないという課題が残る。 ②SNSの適切な利用に関する指導の場を設けたことはよかったが、不適切な使用が完全に防ぐことができなかった点に課題が残る。 ③SCやSSWと協力しながら生徒の支援を行えたことは成果として高く評価できる。	①今年度成功したことを次年度に引継ぎ、生徒に適したプログラムを生徒とともに考える場を設ける。 ②生徒が興味をもつような事例を作るなど、生徒が主体的に参加するプログラムを提案する。 ③SCやSSWの情報を生徒に提供する場を設ける。悩みが深刻になる前に相談できるような支援体制を作る。
3	進路指導・支援	進路発見と進路実現	①個の進路希望に応じた適切な進路指導の充実を図る。 ②進路実現に向けて自己理解を促す。	①年間指導計画を学年ごとに策定し、3年間を通じて系統的な進路指導を実施する。 ①狙いを明確にした、段階に応じたガイダンス等を企画立案する。 ②「進路の手引き」や各種外部模試の結果などを活用し、自己学力や自己適性を見極められるよう指	①必要な情報が適切に、系統立てて発信され、進路実現に役立てられたか。 ②生徒に自分の学力や適性を理解させ、進路実現に資することができたか。	①年度当初に作成・提示した年間指導計画に基づき、系統的な指導を行うことができた。 ②各種外部テストを単発・やりっぱなしとせず、事前事後指導を充実させることができた。例えば1年生では課題テストに向けた課題を学年共通で配信したり、2年生では事後の結果分析会を教員・生徒対象で行ったりすることができた。	①年間指導計画を立案・提示するところまでは確立できたものの、その中身はまだ「その時の学年所属職員が決める」という状態である。同状態は継続性と一貫性に欠けるため、指導を委託する業者を一本化するなどの改善策が考えられる。 ②事前指導のさらなる充実の中でより「自分事化」していく必要がある。	①年間指導計画が系統的に示されたのは高く評価できる。一貫性をもった進路指導を期待している。 ②外部テストを自分から受けることができるような支援を期待している。また、進路先が幅広いことは多様性があり良いことだと思う。	①年間指導計画を立案・提示され、系統的な進路指導が行えたことは成果として高く評価できるが、さらなる発展を目指すことに課題が残る。 ②外部テストの受検者が増えなかったことに課題が残る。	①年間指導計画と実際の指導を比較し、目的が達成できたかを振り返る必要がある。 ②外部テストの必要性や重要性を伝える場を設けることが必要である。

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月6日実施)	総合評価(3月25日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
4	地域等との協働	地域教育力を活用した学校づくり	①近隣中学校・上級学校等との連携の機会を確保し、社会に対して開かれた学校づくりを推進する。 ②地域や社会の方々への積極的な情報公開を行い、意見交流を活かして学校改善につなげる。	導する。 ①中学校との連携の継続とともに、大学との効果的な連携方法を検討する。 ①高大連携コンソーシアム事業等の情報を分かりやすい形で周知する。 ②情報発信の内容を充実させるとともに、学校運営協議会の部会で、地域との意見交流を活発にする。	①高大連携を増やすことや、外部からの情報を工夫して周知することで多様な学びの機会を提供できたか。 ②ホームページがより充実し、動画配信数と視聴数を増やすことができたか。学校運営協議会の部会で意見交流できたか。	①高大連携などの外部の学びについては、情報提供にとどまった。一方で、出前授業などの活用は、複数の教科で見ることができた。 ②tvkでの放送なども活用し、動画での発信を行うことはできたが、十分とは言えなかった。	①教員側に、外部人材を利用する機会の創出を働きかける。 ②中学生や保護者には動画での情報提供が最適だと考えるため、引き続き広報の方法を模索する。来年以降も、多様な取り組みが計画されているので、いろいろな姿を見ていただけるようにする。	①専修大学と「一日体験入学」で接点を持ったことは良かったと思う。 ②今後も生田東高校の広報活動が活発に行われることを期待している。地域等との協働も行われることを期待している。	①大学や中学校と連携できたことは成果として評価できるが、生徒が主体的に取り組めるようなプログラム作りには課題が残る。 ②広報活動においては積極的に行えたことは成果として評価できるが、地域との連携については課題が残る。	①生徒が主体的に取り組めるように、事前学習などを改善する必要がある。 ②広報活動においては引き続き積極的に行っていく。また、地域との協働については、地域との連絡を密にとり、地域の要望を聞きながら実施していく必要がある。
5	学校管理 学校運営	教育環境の整備と「働き方改革」の推進 事故・不祥事ゼロの取組	①保護者との連携を深めるため、情報の速やかな提供を実現させる。 ②感染症対策を維持しながら、PTA活動を活性化させ、生徒の日々の生活の支えとなる活動を進める。 ③「働き方改革」を推進する。 ④事故・不祥事防止の取組の徹底を通じて信頼される学校づくりを進める。	①保護者との連携を深めるために、マチコミの全員の登録を目指し、QRコードのポスターを掲示する等追加の登録依頼をする。 ②感染症対策を維持しながら、体育祭での飲み物提供、文化祭での食品販売、交通安全を学べる車の手配。また制服リサイクルをおこなう。 ③業務の効率化、職場のペーパーレス化を進める。 ④個人情報の取扱いの意識を高める呼びかけをし、不祥事ゼロの研修を行う。	①マチコミに登録している保護者等が増えたか。 ②PTAの活動を生徒に周知徹底し、多くの生徒に利用してもらえたか。 ③Teamsへの移行に伴い、業務の簡素化が達成したか。 ④不祥事防止の取組として、具体的な事例を取り上げ、教員としての自覚を促したか。	①概ね登録は完了している。 ②換気に注意し、感染防止に努めた。PTAと生徒会生徒の座談会を行い、交流を持つ機会を得た。 ③連絡や業務進捗をTeamsを使って配信し、情報共有が瞬時に行えた。 ④文書の一時保管のためのかごを購入し、紛失防止に努めた。	①概ねマチコミが浸透しており、連絡手段として有効活用されている。全員登録を達成していきたい。 ②今後もPTAと生徒会生徒の座談会を継続し、生徒の学校生活の環境向上を目指したい。 ③Teamsの活用により、業務の効率化をさらに進めたい。また、ZOOMの活用頻度を高めたい。 ④適正な会計処理を行い、重要書類の保管場所を定め、事故防止に努めたい。	①マチコミの登録者が増えていることは評価できる。 ②感染防止に努めながらPTA活動が行うことができて良かったと思う。 ③ICT機器を利用して業務が効率化できたことは良いと思う。さらなる発展に期待している。 ④適切な会計処理ができてきていることは評価できる。	①マチコミの登録者が概ね完了していることは成果として高く評価できる。今後は登録が完全になることを目指していくことに課題が残る。 ②PTA活動が積極的に行えたことは成果として高く評価できる。 ③Teamsを活用することで、業務の効率化進められたことは成果として高く評価できる。一方、ZOOMの活用頻度を高めるといった課題が残る。 ④事故・不祥事防止の取り組みに対して組織として対応できたことは成果として高く評価できる。	①マチコミの登録者が100%になるように、引き続き声掛けなどを行う。 ②引き続きPTA活動が活発に行えるように保護者との連携を密にする。 ③ZOOMの活用頻度を高めるように、職員が使う場を設けたり、組織として取り組んだりする必要がある。 ④引き続き、事故・不祥事防止に対しては、組織として対応できるようにし、信頼される学校づくりに対して、職員全体で取り組むような環境を作る必要がある。